

園だより

10号 2019年12月23日



ばんけい幼稚園

「 “今” 何を親として伝えるか 」

尾形 玲子

秋の日のある朝、自宅の窓からエゾシカの親子の姿が見えました。（家にいてエゾシカを見るなんて…一体どこでしょう？）その親子は一定の距離を保ちつつ、子どもが先を、その後を親が子の姿を見守り、周囲の様子に注意を払いながら歩いていました。親は私の視線に気づいたのかピタリと足を止め、子に何かしらの合図をしたのでしょいかも足を止めました。その様子を見ていて”ヒト“は安全（と思われる）環境で過ごしていることを感じながらも、ふと不安と心配になりました。

最近、子どもが被害にあってしまう痛ましい事故、事件をニュースで見聞きする度、胸が痛くなる思いをされている方も少なくないと思います。子どもたちがそのような場面に会わないためにはどうしたらよいのか…。まずは身近にいる大人（親、教師）が丁寧に、時には厳しく子ども自身が身を守ることを伝えていくことが必要なのではないのでしょうか。

私自身、子育て中「家から出たら一人で勝手に行動しない（親の目、手の届くところにいる）」「車は一人で乗降車しない（ドアを開けるのは大人）」等々、口うるさく、厳しく言い続けていました。万が一のことを考えると私自身が怖くて仕方なく「わが子を守ることができるのは私だけ」と思っていました。子どもにとっては煩わしい親だったと思いますが、そうしながら親子のルール、社会でのルールやマナーを伝えてきたつもりでいます。「あの時に…」と思うことのないように…ある意味、強く自分を守っていたのかもしれない。

ですが、幼児期はこれから自分自身を守る術を身につけていくための大切な時期なのではないでしょうか。

幼稚園でも避難訓練や交通安全教室等、安全な生活を送るために必要な手段を学ぶ機会がありますが、やはり毎日の生活の中での“積み重ね”の効果は自分の身は自分で守る意味で大きいと思います。通園時、お買い物の時等、日々の生活を絶好の機会と捉えて、親子で確認していただけたらもっと安全への配慮の精度があがると思います。

親が守ってあげられるのは本当に短い期間なのではないでしょうか。小学生になれば自分で登下校し、親がいなくても友達と遊ぶようになっていきます。それが子どもの成長です。子どもの成長とともに親は子どもを見守ることしかできなくなる場面が増えていくのです。だからこそ“今”の時期を大切にしなければいけないと思っています。

子どもが自立していったときに「あなたなら大丈夫！」と安心して送り出して、見守ってられるように…多少煩わしく思われても、過保護と思われても“今”だけ。この今を伝えるチャンスだと思ってください。

先述のエゾシカですが…私たちの住む環境よりも安全な環境にいるのではないかしら??ライオンやハイエナが出てくるわけではなし、私が追いかけて捕まえるわけではなし（笑）。

ばんけいの山はいいですね。

それぞれの家庭の流儀を伝える機会に

園長 馬見 雅子

冬休みが始まります。冬休みは、クリスマス・年末年始等があり、大人は何かと忙しさが先に立ってしましますが、子どもにとってはとても楽しい、記憶に残る時期であると思います。例えばクリスマスの過ごし方、大みそかの過ごし方、お雑煮の味、お正月の遊び、親戚の人たちに会って年越しをしたり、年始の挨拶をしたり、お年玉をもらったり…それぞれのご家庭での流儀があることと思います。保護者の皆さんにもそれぞれの記憶があることでしょう。子どもにとって楽しい記憶となり、その子の伝統となっていくことでしょう。そのような経験を大いに楽しみ、大切にしてください。

また、ご家庭で過ごす時間が長くなる冬休み、お子さんの話に耳を傾けたり、しっかりと目と目を合わせて話をしたり、共に楽しんだりするチャンスがあります。また、挨拶、自分でやるべきこと、お手伝い、交通ルール、公共のマナー等について、伝え実践する機会もあると思われます。お年玉の使い方やゲームを手にする場合のルールなどを伝える機会もあるかもしれません。その場合もその家庭の流儀があることでしょう。「家は家」の約束や、やり方を伝える事も大切な事です。

冬休み、病気や怪我や事故のないように、ご家族で楽しい時間を過ごしてください。3学期に元気な子どもたちに会えるのを楽しみにしています。